

2024年度 社会連携教育科目群 講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覧

〔発行日：2024/5/1〕最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

【A9850】社会連携フィールドワーク（ベーシック）[小川 浩孝] サマーセッション/Summer Session	1
【A9851】社会連携フィールドワーク（ベーシック）[伊藤 マモル、藤岡 成美、水野 雅男] サマーセッション/Summer Session	3
【A9852】社会連携フィールドワーク（ベーシック）[三田地 真実、小秋元 段] 秋学期授業/Fall	7
【A9853】社会連携フィールドワーク（ベーシック）[コーディネータ：山本兼由、講師（ゲストスピーカー）：イオンフィナンシャルサービス株式会社] オータムセッション/Autumn Session	10
【A9854】社会連携フィールドワーク（アドバンス）[水野 雅男、伊藤 マモル] スプリングセッション/Spring Session	12
【A9855】社会連携フィールドワーク [高見 京太] サマーセッション/Summer Session	14
【A9857】社会連携PBL（アドバンス）[高田 朝子] オータムセッション/Autumn Session	16
【A9859】社会連携講座（ベーシック）[佐野 哲] 春学期授業/Spring	18
【A9860】社会連携講座（ベーシック）[コーディネータ：山本兼由、講師（ゲストスピーカー）：イオンフィナンシャルサービス株式会社] 春学期授業/Spring	19
【A9861】社会連携講座（アドバンス）[高見 京太、佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	21

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携フィールドワーク (ベーシック)

小川 浩孝

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷

備考 (履修条件等)：

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2023年6月にキャリアデザイン学部「マーケティング論」のグループワーク実習の中で、学生チームがタイのリサイクルファブリック100%使用アパレルブランド「CIRCULAR」の日本市場導入戦略を、タイ本国から来日したCEOに対して発表した。そこで提案された「法政大学などと連携し古着を集め、それらを用いて大学ブランドの衣料品を作成し、キャンパスなどで販売する」というアイデアを実行に移そうとしている。

CEOへの提案後、法政大学のSDGs活動にフォーカスした学生サークルの力を借りて古着を収集したり、「エコプロ」というSDGs活動にフォーカスした展示会に参加して、本件に興味を持つ大学、団体、企業などの反応や意見を収集し、ネットワーク活動を行ってきた。これらの経験・実績をもとに、この授業・フィールドワークを通じて、さらに大学関係者、アパレル業界関係者、ロジスティクス業者などへの事前調査を行い、本アイデアの実現に向けた具体的なプランを立案する。

【到達目標】

法政大学を含む大学事務担当者、アパレル業界関係者、ロジスティクス業界関係者、マスコミ関係者などへヒヤリングを行い、実施プランをチームごとにまとめ、授業の最後にそれらを各界関係者へ発表する。これらを通じて実現性のある具体的なプランはどのように作成し、プレゼンテーションすれば良いか知識と経験を得る。またプラン実現の障害やリスクとなる要素が何で、どのように解決するか、チームごとにアイデアジェネレーションを行い、プレゼンテーションに含める。授業終了後は希望学生を募りプランを実行に移す。 Interviews will be conducted with university administrators, including those at Hosei University, those in the apparel industry, those in the logistics industry, and those in the media.

Each team will compile an implementation plan, and at the end of the class, they will present their plans to those in various fields. Through these activities, students will gain knowledge and experience on how to create and present a concrete, realistic plan. In addition, each team generates ideas about what are the obstacles and risks to realizing the plan and how to solve them, and includes them in the presentation. After the class ends, we will co-work with interested students and put the plan into action.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は対面。業界関係者等は先方の都合に合わせて、オンラインでのヒヤリング実施や授業参加も考慮する。

取り組み(1)：

プロジェクト概要説明、明らかにすべき要点の整理、チーム分け、ヒヤリング内容の確定、業界関係者の授業参加と事前ディスカッションとフィードバック(その1)

取り組み(2)：

業界関係者の授業参加と事前ディスカッションとフィードバック(その2、その3)

取り組み(3) フィールドワーク：

業界関係者へのヒヤリング実施(訪問もしくはオンライン)とヒヤリング内容のまとめ(チームごと)

取り組み(4)：

ヒヤリング内容に基づく、ローンチプランの作成・ブラッシュアップ。業界関係者へのプレゼンテーションおよびフィードバック

業界関係者候補：

法政大学・他大学事務関係者

アパレル業界関係者(アパレルメーカー、小売業者(例：三越伊勢丹バイヤー))

ユニフォーム業界・リサイクル業界関係者(例：株式会社ダスキン広報担当)

ロジスティクス関係者(輸出入フォワード)

マスコミ関係者(新聞社など)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回～	プロジェクトの概要	8月2日(金)
第3回	とヒヤリング内容決定	プロジェクト概要説明、明らかにすべき要点の整理、チーム分け、ヒヤリング内容の確定、アポイントメント
第4回～	フィールドワーク。	8月3日(土)～6日(火)の適時
第6回	相手の都合の良い日時に実施。対面もしくは必要に応じてオンライン。	ヒヤリング、インタビュー
第9回～	フィールドワークの	8月7日(水)
第11回	報告とプレゼンテーションの製作	チーム発表とそれに基づく提案の作成、発表準備
第12回～	プレゼンテーション	8月8日(木)
第14回	発表	フィールドワーク結果と提案の発表。業界関係者からの講評。次のステップの話し合い。
なし	なし	なし

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

チームメンバーとの連絡や話し合い、確認作業など。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

クラスやチームへの貢献・参加を中心とする平常点60%、チームプレゼンテーションの評価40%。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、タブレット、PCなど。立て替え交通費(後日精算)。インタビューに協力して下さる業界関係者に対する礼儀正しい振る舞いや適切な服装が求められます。

【その他の重要事項】

受講者にはCIRCULARブランドの紹介などの資料をHoppiiを通じて事前配布します。授業開始前に必ず見ておいてください。また、アパレル(特に大学のブランディングアパレル)の状況などを把握しておくようにしてください。

【Outline (in English)】

In June 2023, during a group work session in the Faculty Of Lifelong Learning And Career Studies' "Marketing Theory," a student team proposed the Japanese market entry strategy for "CIRCULAR," an apparel brand made from 100% recycled fabric in Thailand, to a CEO who had visited Japan. Their proposal was "working with Hosei University and other institutions to collect second-hand clothes, use them to create university-branded clothing, and sell it on campus."

After the proposal presentation, we collected used clothes with the help of Hosei University's student circle focused on SDGs activities, and participated in an exhibition called "EcoPro" focused on SDGs activities. So far, we have collected reactions and opinions from universities, organizations, companies, etc., and developed network with them.

Based on these experiences and achievements, through this class/fieldwork, we will further conduct a preliminary survey with university personnel, apparel industry personnel, logistics companies, etc., and drew up a concrete plan to realize the idea.

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携フィールドワーク (ベーシック)

伊藤 マモル、藤岡 成美、水野 雅男

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷

備考 (履修条件等)：

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大規模自然災害に関する知識を深めるとともに、災害発生直後を想定したキャンパス内における 帰宅困難者としての宿泊体験を通じ、多様な避難者および避難施設で生じる可能性が高い健康および環境衛生等の問題に着目し、臨機応変に対応することの難しさを学ぶ。また、防災行動に対する複眼的な目を養うことで、サステナブルな防災意識向上に資する大学教育の在り方を探る。そのため、帰宅困難者を受け入れる側には、高度な問題解決能力が求められる。

【到達目標】

与えられた課題に対するグループワーク、自ら見出した問題解決のための積極的なコミュニケーションを重視します。

- 1) グループ活動に積極的に関わり自分の役割に責任をもって貢献できる
- 2) 議論の収束や結論を出すことに貢献できる
- 3) 自ら積極的に話しかけたり、相手からもよく話しかけられるなど、グループ内で信頼関係を築くことができる
- 4) 課題に関連する事象・情報の背景、問題などを論理立てて他者に分かりやすく説明できる
- 5) 解決を目指す課題の目的や内容にそってグループ全体で取り組むための他者からの意見を引き出すなどの配慮ができる
- 6) 物事を常に多面的に考察し検証することができる
- 7) 専門的な知識や情報を課題解決の議論に役立てることができる
- 8) 課題達成に向けたスケジュールにそったグループの合意形成に貢献できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

【進め方】

※ 履修希望者はこのシラバスの「その他の重要事項 / Others」に記載されたリンク先から履修者希望アンケートを提出してください。授業では、講義 (知識)・実習 (技能)・演習 (実践と検証) などからなる総合的な学びを提供します。グループワークによる実習および演習を中心に、学外者の協力を仰ぎながら課題の解決に取り組みます。

【方法】

授業は全3日間です。

1. 「前半」の1泊2日は疑似的な帰宅困難者滞在施設を想定した「市ヶ谷キャンパス内」での宿泊体験型フィールドワーク (=防災キャンプ)を行います。
2. 「後半」は帰宅困難者受け入れ施設運営ゲーム (以下、KUGと略す) によって発見した「気づき」や「問題」を解決するための提言作成を目指します。
3. 新型コロナの市中感染状況に応じた大学の教育活動および関連する諸活動に関する行動方針や大学施設の利用状況に応じて変更される場合があります。その場合は、授業開始前日までに学習支援システムのお知らせから通知します。
4. 本授業では、スマートフォンのアプリケーションを利用した自らの健康情報 (睡眠時間、心拍数、歩数、消費エネルギー等) の収集・記録を行う等の準備学習を実施します。
5. 準備学習については、事前説明会 (オンラインまたは対面で実施するかの判断は、履修者の状況を鑑みて、履修者確定後に周知します) を実施します。
6. 水が利用できない場合を想定したトイレ実習を行います。

7. 防災キャンプでは、各自が有する非常食や備蓄食を持参し、食した感想や気づき等の情報を共有します。

8. 防災キャンプの宿泊場所は、次の①~③を予定しています。

①市ヶ谷総合体育館 (3Fおよび5F)

②市ヶ谷キャンパス内校舎屋内 (教室)

③市ヶ谷キャンパス内校舎屋外 (中庭での一人用テント)

なお、本科目では寝具として学生1名に対して毛布1枚を配布します。

9. 授業前2011年に起こった東日本大震災のホットラインとして、その普及が始まったLINEを教材として用います。

10. 授業にともない本授業履修者で構成するLINEグループへの登録に協力してください。なお、登録に当たっては個人情報の扱いについて慎重な対応を求めます。

第一日目：ガイダンス、事前学習、健康に関する定量的測定、宿泊に伴う衛生管理 (主にトイレ実習)、帰宅困難者支援施設の見学、非常食・備蓄食の食事、就寝の準備等

第二日目：普通救命講習、本学における帰宅困難者施設に関する問題点の共有、地域社会における帰宅困難者支援に関する課題の認識

第三日目：KUGに関する事前学習および実施、KUGによる学習成果発表、千代田区ならびに大学への提言作成

授業終了後：レポート提出

授業およびグループワークで得られた成果などのフィードバックは、①授業最終日の発表資料、②大学への提言書および添付資料を共有するとともに、「成績評価の方法と基準」に記載があるとおり、教員の一方的な評価を避け、グループにおける履修者相互評価の結果を還元します。

なお、この授業で収集した個人情報等は、その目的以外に使用しません。FDやオンラインシステムの再構築、今後の防災・減災に関する教育およびその研究に資する資料として用いる等のいかなる場合も、個人情報は公表されません。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	<8月2日3限> ガイダンス 帰宅困難者支援施設について	①ガイダンス ②グループ分け ③グループワーク：履修者紹介・アイスブレイキング ④期初測定 (アミラーゼ・ストレス度・体重・身体組成・アンケート等) ⑤授業前測定結果の分析と振り返り ⑥帰宅困難者支援施設について ⑦2021~2023年度で取り組んだ課題解決型フィールドワークの成果 ⑧誓約書提出 (災害対応学生ボランティアへの登録) ⑨LINEチャットの積極的活用 (災害時を想定した授業中の情報交換)
2	<8月2日4限> 避難施設における健康と衛生管理およびトイレ実習	講義1) 避難所 (環境の認識) での過ごし方 講義2) 避難所および帰宅困難者滞在施設における健康管理について / 宮崎先生・防災教育普及協会) 実習) グループワーク：非常時のトイレ実習 男女別

3	<8月2日5限> 非常食のローリングストックおよび市ヶ谷キャンパスにおける帰宅困難者支援および備蓄倉庫の視察	講義：非常食のローリングストックとは〔50分〕／酒井教授・東京家政学院大学 グループワーク 実習1）市ヶ谷総合体育館までの経路確認および備蓄倉庫見学〔50分〕 実習2）市ヶ谷キャンパスの初動対応用備蓄品の所在と確認 実習3）夕食（各自で持参した非常食や備蓄食を食す）および情報交換 グループワーク	9	<8月3日4限> 帰宅困難者支援施設に関する教育教材の工夫	演習：最先端IT企業の取り組み／防災を啓蒙する教育ツールについて／竹口先生・株式会社LINEヤフー
4	<8月2日6限> 大規模自然災害発生直後を想定した疑似的帰宅困難者支援施設への移動と受入れ演習	1）大規模自然災害下を想定した「食事」 2）宿泊場所の振り分け（案） ①帰宅困難者として（体育館3F）：20人 ②帰宅困難学生として（教室内）：20人 ③一般避難者として（一人用テント）：10人…天候不良等の理由から中止の場合もある 3）疑似的な帰宅困難者支援施設への移動 4）ロールプレイング ①演習に関するガイダンス ②ロールプレイングの役割分担・受入れ役（10～15名）・避難者役（15～20名） ③演習課題（2023年度アクションカードに基づく） ④振り返り（受入れ側と避難者の関係）	10	<8月5日1限> KUGを理解するための事前学習	シンポジウム：「仮題・大規模自然災害発生時の大学キャンパスでの避難生活のマネジメント～千代田キャンパスコンソおよび近隣企業との連携～」／司会（科目担当者・伊藤マモル） ①ガイダンス・履修者紹介等 ②仮題・帰宅困難者の心理状態／堀准教授・大妻女子大学 ③仮題・富士見・飯田橋駅周辺地区における帰宅困難者対策／品川先生・株式会社日建 ④仮題・千代田区が有する今後の課題／樋口区長 ⑤仮題・大学キャンパス内でテント生活～新たな避難所生活の提案～／水野教授・法政大学 ⑥：議論
5	<8月2日7限> 寝床整備とトイレ実習および測定	グループワーク 1）①～③別ロールプレイ 2）就寝環境を整える ①帰宅困難者として⇒体育館3Fに宿泊 ②帰宅困難学生として⇒教室内に宿泊 ③一般避難者として⇒一人用テントに宿泊 3）本日の振り返り 4）就寝前測定 5）翌朝の予定確認	11	<8月5日2限> KUGに取り組むための事前学習	実習 ①千代田区および法政大学市ヶ谷キャンパスにおける備蓄倉庫の視察 ②帰宅困難者支援施設の視察 ③KUGの方法・KUGの意義・KUGの目的、方法、期待される効果等に関する学習・KUGの実践
6	<8月3日1限> 東京消防庁・普通救命講習（講義および実習編）	1）測定（起床後） 2）実習：普通救命講習（認定証発行）／麹町消防署 ①心肺蘇生 ②AED（自動体外式除細動器） ③異物除去 ④止血法 等の理論 ※実施不可の場合 実習：軽微な外傷処置または毛布搬送等の実習	12	<8月5日3限> KUGの実践・振り返り	KUGを実践するとともに、体験したKUGの振り返りを行う。また、帰宅困難者支援施設に関する問題の抽出と改善策を検討する。
7	<8月3日2限> EV車を利用した調理実習	実習：EV車（協力企業：日産自動車）による給電を利用した電子レンジの（協力企業未定）利用（体験実習および昼食時間：2.0～2.5時間程度を想定） ※猛暑対策を講じる	13	<8月5日4限> KUGの振り返り・発表準備	グループワーク 演習1）KUGの振り返り ①大規模自然災害後の帰宅困難者施設設営（施設内の点検・整備・誘導先決定・備蓄品の運搬配給等） ②帰宅困難者の受入れ開始・案内（受付・問合せ・相談・滞在室への誘導・備蓄品配給・トイレ等衛生管理・盗難被害の警備・その他） ③コンソーシアム大学・近隣近業との情報共有（受入れ状況・備蓄品の共有等） ④コンソーシアム大学・近隣近業との相互支援（ボランティア支援・帰宅困難者の受入れ追加対応等） ⑤その他 演習2）発表準備 本授業の振り返り、千代田区および大学への提言作成、発表用パワーポイントの作成等
8	<8月3日3限> 地域社会における帰宅困難者支援に関する課題	講義1）帰宅困難者支援に関する事例紹介／予定・千代田区役所からの情報提供等〔50分〕 講義2）帰宅困難者支援施設とネットメディアとの連携／谷島准教授・二松学舎大学〔50分〕	14	<8月5日5限> サステナブルな防災意識と防災行動に関する振り返りと評価	グループワーク：各課題に対する解決策の提案と具現化（レポート作成について） サステナブルな防災意識と防災行動に資する提言をまとめるための発表と討論（学生相互評価実施）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) スマートフォンのアプリケーションを利用した自らの健康情報（睡眠時間、心拍数、歩数、消費エネルギー等）の収集・記録を行う等の**準備学習を実施**します。

2) 法政大学と千代田区との間で交わされた「大規模自然災害発生時の協力体制基本協定」および「大規模自然災害発生時の一時滞在避難施設に関する参考文献」を事前にメールまたは学習支援システムを用いて展開します。これらの情報を随時グループ内で共有し、**本授業の準備学習・復習時間**として、本授業で解決すべき課題の背景に潜む問題や未来志向的な検討を**各2時間を目安**に行ってほしい。

【テキスト（教科書）】

本授業の教科書は準備しない。

講義や実習（フィールドワーク）に必要な資料は随時配布する。

【参考書】

①令和3年度「千代田学」に関する区内大学等の事業提案制度共同事業・「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究」報告書

②『防災キャンパ活動中のヘモグロビン濃度とストレスの変動』、伊藤マモル、宮崎賢哉、2022年3月31日、法政大学スポーツ研究センター紀要第40号、p.17-23

③令和4年度「千代田学」に関する区内大学等の事業提案制度共同事業・「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究」報告書

④実験医学 2022年7月 Vol.40 No.11 睡眠医学～眠りの分子・神経基盤を解明し、睡眠異常へ介入する、上田泰己(その他)、羊土社

⑤シミュレーションで学ぶ避難所の立ち上げから管理運営HAPPY一エマルゴトレインシステム手法を用いて、江部克也(編集)、荘道社

⑥みんなで取り組む災害時の保健・医療・福祉活動、國井修・尾島俊之・石井美恵子(編集)、南山堂

⑦女たちの避難所、垣谷美雨、新潮文庫

⑧警視庁災害対策課ツイッター防災ヒント110、日本経済新聞出版社

⑨平成28年熊本地震大学避難所45日 障がい者を受け入れた熊本学園大学震災避難所運営の記録、熊本学園大学(著)、熊本日日新聞社

⑩避難所に行かない防災の教科書、西野弘章、扶桑社

上記の他、歴史的な大規模自然災害発生時の出来事や一時滞在避難施設などを主題またはキーワードとして用いている書籍や資料を読み、本授業で目的としている「複眼的な思考パターン」や既存の制度やサービスの「多様性を広げる」ための一助としてほしい。

【成績評価の方法と基準】

全出席者が評価の対象とし、以下の観点から授業で設定した課題解決に**グループで取り組んだ過程を重視**した評価を以下の通り配分して行います。

【観点】

1) 帰宅困難者支援施設の運営にボランティアとして携わることになる学生もまた被災者であるという心構えを考える。

2) 1) を踏まえた上で、不特定多数の帰宅困難者や予期せぬ多様な問題への対応を検討し、千代田コンソーシアム大学や近隣企業との連携を視野に問題解決を図る。

1. チームワーク、コミュニケーション、リーダーシップ、ファシリテーションなどに関する評価：**40%**

2. 課題達成に必要な思考力、理解力、分析力、完遂力などに関する評価：**30%**

3. グループによる発表および提言書のまとめに関する評価：**30%**

以上の評価は、教員の一方的な評価を避け、グループ内での履修者相互の評価に重点を置きます。具体的には本授業用に準備した**ルーブリック式評価基準**を用います（ルーブリックはガイダンスで提示します）。

すなわち、**到達目標の8項目**について、グループ内または履修者全員による相互評価を行います。各項目の評価は1～5点とし、その合計点を評価の基礎とします。最終的には前述の1～3の評価配分に基づいて教員が評価を行い単位認を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本授業の科目責任者が2020年から2023年度に行った「市ヶ谷キャンパスにおける首都災害時帰宅困難者問題への対応（一時滞在避難施設における二次災害・ウイルス感染等のゼロを目指して）」を履修した学生を対象に行ったアンケートから、履修満足度は非常に高く、実際に体験して得られる学びの価値の大きさに気づいたという学生がほとんどでした。それだけに、情報共有や議論に割く時間をさらに求める声が多かったのも事実です。

また、課題解決型フィールドワークに対するこれらの高い評価と類似科目を増やしてほしいという要望が多数寄せられたことを背景に新設した2023年度の授業を踏まえ、2024年度の授業を刷新しました。

本授業で行うキャンパス内での宿泊と防災意識を高めるための模擬的な帰宅困難者一時避難施設の体験は、ほとんどの学生が体験できない貴重な機会となると期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

1) COVID-19のような感染症の影響により、授業がオンラインになった場合の通信環境を整備してください。

2) スマートフォンまたはタブレット（ノートパソコン等）を持参してください。

3) 確実に栓を締められるペットボトルや水筒（積極的な水分補給を推奨します）を持参してください。市ヶ谷キャンパス内の自動販売機で購入もできます。

4) 8/2（授業第一日目）の就寝時の服装は、床の上での雑魚寝を想定した衣類を準備してください（入浴はできません）

5) 就寝具は不要です。授業課題を鑑み、キャンプ用の寝袋やマット等は持参しないでください。なお、非常用毛布は各自に1枚配給します。

6) 自宅にある非常食や備蓄食を持参してください（8/2夕食、8/3朝食）

※ これ以外の昼食は非常食に限らず、各自で自由に指定された時間内に食べてください。

7) 授業計画の第6回で実施を予定している東京消防庁・普通救命講習を実施する場合は、テキスト代1,500円が必要です。上記の他に準備すべき機器などについては随時連絡します。

【その他の重要事項】

※注意1＞履修希望者は以下のリンク先から**履修者希望アンケート**を提出してください。

<https://forms.gle/NZvGSWR2ZnAc3hWx7>

履修申請者数が**募集定員を超過した場合**は、履修希望者アンケートによって科目責任者が履修者を選抜します。なお、選抜結果はメールで通知します。

※注意2＞この授業で用いるグループLINEにおいて、**誹謗中傷・迷惑行為や嫌がらせ等の悪質なメッセージが確認された場合は**、授業運営上の安全管理の立場から、その発信者個人を特定し適切に対応します。

※注意3＞2022年度は台風の影響を受け、授業計画を大幅に変更しました。そのため、履修する場合は**サマーセッション期間（8/2～8/8）**の旅行や就職活動等の個人的な予定を組むことを控えておくことを推奨します。

※注意4＞8/2の宿泊について

体育館や教室では、発災後の停電を想定した状況をより現実的に体験するために**エアコン**の使用を制限する予定です。しかし、熱中症対策や健康障害のリスクが高まる状況では臨機応変に**エアコン**を使用します。ただし、屋外でのキャンプに参加する場合はその限りではありません。キャンプを選択する場合は健康状態を入念に確認した上で、屋内での宿泊を勧めることがあります。

※注意5＞授業2日目の早朝について（以下のグループワーク…授業外学習を行います）

（以下の①～③は、【授業の進め方と方法】の【方法】8を参照してください）

1) 健康状態の確認：①～③共通

2) 起床時の測定：①～③共通

3) 体育館グループは、清掃・トイレ実習汚物処理

4) 教室宿泊グループは、清掃後、体育館に移動

5) キャンプグループは、テント撤収後、体育館に移動

6) 各自で朝食（各自の携行品・千代田区からの提供）

7) 8:50までに身支度を整えてください

なお、本科目は以下のSDGsのゴールに該当します。

- 3：すべての人に健康と福祉を
- 4：質の高い教育をみんなに
- 6：安全な水とトイレを世界中に
- 10：人や国の不平等をなくそう
- 11：住み続けられるまちづくりを

[Outline (in English)]

[Course outline] The purpose of this course is to develop a multifaceted viewpoint for disaster reduction behavior and to examine ways in which university education can contribute to raising awareness of sustainable disaster reduction.

The first half of this class will be a two-day and one-night stay in a gymnasium. The purpose of this experience is to simulate a large-scale natural disaster and to allow students to experience what it is like to be a person who has difficulty returning home. Through this experience, we will inspect the problems of facilities that accept people who have difficulty returning home.

In particular, quantitative measurements (pulse rate, salivary amylase, temperature, humidity, etc.) that will contribute to the development of a health management system will be taken to examine health problems.

In the second half of this class, students will experience a desk-based training called the Kitaku Konnanshya Shisetsu Unei Game (hereinafter referred to as "KUG"). The purpose of the KUG is to develop the students' preparedness and response skills in the event that they become involved in the operation of an evacuation facility as student volunteers.

In particular, the KUG will provide experience in dealing with a variety of evacuees and problems that may arise at evacuation facilities, in cooperation with the university's faculty and staff.

[Learning Objectives] Emphasis will be placed on group work and communication skills for given tasks.

- 1) Able to actively participate in group activities and contribute responsibly to one's own role
- 2) Able to contribute to the convergence of discussions and conclusions
- 3) Ability to build trusting relationships within the group by actively talking to others and being often spoken to by others
- 4) To be able to explain the background of events, information, and problems related to the issue to others in a logical and easy-to-understand manner.
- 5) Be able to take into consideration the opinions of others in order for the entire group to work together on the purpose and content of the issue to be solved.
- 6) To be able to always consider and verify things from multiple perspectives
- 7) To be able to use specialized knowledge and information in discussions on problem solving
- 8) Contribute to building consensus in the group according to the schedule for achieving the task

[Learning activities outside of classroom] The "Basic Agreement on Cooperation System in the Event of a Large-Scale Natural Disaster" and "References on Temporary Shelter Facilities in the Event of a Large-Scale Natural Disaster" exchanged between Hosei University and Chiyoda Ward will be developed in advance via e-mail or Learning Support Systems. We would like you to share this information with the group as needed and spend approximately 2 hours each as preparation and review time for this class to examine the issues behind the problems to be solved in this class and future-oriented considerations.

[Grading Criteria /Policy] Evaluation will be allocated with emphasis on the process of working as a group to solve problems in this class.

1. Evaluation of teamwork, communication, leadership, facilitation, etc.: 40%
2. Evaluation of the ability to think, understand, analyze, and complete the task: 30%.

3. Evaluation of group presentations and written recommendations: 30%.

The above evaluations will avoid one-way evaluation by the instructor and will focus on mutual evaluation within the group. Specifically, a rubric will be used for this class (the rubric will be presented at the guidance).

In other words, each of the 9 objectives will be evaluated by the group or by all students in the class. Each item will be rated on a scale of 1 to 5, with the total score used as the basis for evaluation. The final evaluation will be made by the instructor based on the aforementioned distribution of points from 1 to 3, and credit will be granted.

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携フィールドワーク (ベーシック)

三田地 真実、小秋元 段

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カーボンニュートラルを達成するために、地球規模の環境・社会問題の構造の理解を深める。具体的には、カーボンニュートラルを推進している企業・自治体・大学等の取組について学ぶために、実際の企業の施設見学、法政大学市ヶ谷・多摩キャンパスの施設見学及び森林見学等のフィールドワークを実施する。最終回の授業では、これらの学びの集大成として法政大学へのカーボンニュートラルに関する取組の提案発表をチームとして行う。そのために、各授業回でグループワークの時間をもち、そこでは様々な問題解決のために必要な話し合いの技術であるファシリテーションも学ぶことを目的とする。

【到達目標】

1. コンテンツ（学習内容）のゴール：
カーボンニュートラルを達成するために、地球規模の環境・社会問題の構造の理解を深め、身近なところからアクションを起こすことができる。
2. プロセス（学習過程）のゴール：
環境・社会問題を解決していくための話し合いの技術（ファシリテーション）を学び、他の課題解決に対しても応用できる（毎回、ファシリテーションミニ講座を設定）。
3. 最終課題：
法政大学に対し、チームでカーボンニュートラルに関する取組の具体的な提案を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の授業の基本的な内容は、下記のとおり。

- ① ゲストスピーカー（企業、自治体及び本学専任教職員）による講義
- ② フィールドワーク（企業及び本学の施設見学、多摩キャンパスの森林見学等）
- ③ ①②を踏まえたグループワーク

最終回の授業では、法政大学に対してカーボンニュートラルに関する取組の提案をチームでプレゼンテーションする。本学専任教職員が審査員としての講評を行う。

なお、毎回の授業終了後には各自で記入するリアクションペーパーを課し、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行うほか、最終プレゼンテーションに対して講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回～ 第3回	ガイダンス 取組紹介（1） 法政大学の取組 取組紹介（2） 那須塩原市の取組	9月28日（土） 市ヶ谷キャンパス 授業全体のオリエンテーション 目的・進め方・内容等の説明 本学施設保全部による説明 グループワーク 市ヶ谷キャンパス施設見学 那須塩原市による講義 「那須塩原市におけるカーボンニュートラルに関する取組について」 ・青木地区ゼロカーボン街区構築事業 ・地域企業と連携した脱炭素化事業 ・EV普及促進事業 グループワーク
第4回～ 第6回	取組紹介（3） 日産自動車の取組	10月5日（土） 日産自動車本社（横浜） 日産自動車株式会社による講義 「脱炭素社会実現に向けた日産自動車 電気自動車（EV）の取組」 ・脱炭素社会実現に向けた国外、国内の動向 ・EV普及に向けた日産自動車の取組 ・自治体におけるEV活用事例紹介 「脱炭素」「エネマネ」「災害」「交通」「観光」 試乗、給電体験 グループワーク
第7回～ 第9回	取組紹介（4） 東京ガスの取組	10月12日（土） ガスの科学館（豊洲） 東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社による講義 「2050年カーボンニュートラル実現に向けて」 ・国内外エネルギー政策を取り巻く環境 ・東京ガスグループのカーボンニュートラル実現に向けた取り組み ・法政大学で採用されているカーボンニュートラル都市ガス（CNL）について 施設見学 グループワーク

第10回～ 取組紹介（5）
 第12回 法政大学の取組
 （多摩キャンパス）

10月26日（土） 多摩キャンパス
 社会学部 澤柿教伸教授 講義
 「南極から迫る気候変動」
 ・診断医としての南極観測隊
 ・人新世におこる南極の異変
 ・イノベーションを起こす
 と
 池田寛二名誉教授（元社会学部教授）、社会学部 鞠子茂教授 講義
 「多摩キャンパスの森林からカーボン・ニュートラルを考えよう」
 ・森林とカーボン・ニュートラルの複雑な関係
 ・世界の森林の現状と課題
 ・国土の7割近い日本の森林と気候変動
 ・多摩キャンパスの森林の過去・現在・未来
 多摩キャンパスの森林を歩いて学ぶ：
 多摩キャンパスの森林生態系（樹木、雑草、土壌、野生動物、微生物そして人間）はカーボン・ニュートラルにどのように寄与しているのか？
 森林バイオマスの推定および土壌有機物分解速度の測定
 グループワーク：
 多摩キャンパスの森林のカーボン・ニュートラル効果をもっと高めるために学生はどんなアクションを起こすことができるか
 討論

第13回～ 最終プレゼンテーション
 第14回 ション
 授業全体のまとめ

11月16日（土） 市ヶ谷キャンパス
 法政大学へのカーボンニュートラルに関する取り組みの提案（チームでのプレゼンテーション）、講評
 授業全体の省察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 最終プレゼンテーションの準備は授業時間以外にも実施予定。本授業の予習時間・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
 テキスト（教科書）は使用しない。

【参考書】
 カーボンニュートラル関連の参考図書等は以下の通り。((※)は全文ダウンロード可)
 野村総合研究所編（2022）カーボンニュートラル、日経文庫
 法政大学多摩環境委員会（2014）多摩キャンパス：自然と生物（※）
https://www.hosei.ac.jp/application/files/2615/7137/8082/tama_houkokusyo_2014.pdf
 森林立地学会編（2012）森のバランス—植物と土壌の相互作用、東海大学出版
 資源エネルギー庁スペシャルコンテンツ（キーワード検索すると関連記事が出てきます）：
<https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyoo/ondankashoene/>
 脱炭素ポータル：
https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/
 その他、授業中に適宜配付する。
 ファシリテーション関連の参考図書等は以下の通り。((※)は全文ダウンロード可)
 Justice, T. & Jamieson, D. W. (2012) The Facilitator's Fieldbook: Step-by-step Guides Checklist and Worksheet (3rd ed.), Harpercollins Leadership.
 川嶋直（2013）KP法 シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション、みくに出版

三田地真実（2009）環境との相互作用から理解する人間行動—応用行動分析学（ABA）の視点から、人間環境論集（法政大学人間環境学会）、10、23-42.（※）
 三田地真実（2018）学生の行動を軸に見据えて、「機能するグループワーク」を企画・実施するために—行動分析学とファシリテーションの視点から、法政大学教育研究、9、27-39.（※）
 三田地真実（2022）対面授業のビデオ記録を活用した省察—経済学大人数授業アクティブ・ラーニング型授業での実践、名古屋高等教育研究、22、245-260.（※）
 中城進（2006）教育心理学、二弊社
 中野民夫（2017）学び合う場のつくり方—本当の学びへのファシリテーション、岩波書店
 中野民夫（監修）三田地真実（2013）ファシリテーター行動指南書—意味ある場づくりのために、ナカニシヤ出版
 中野民夫・三田地真実（編著）（2016）ファシリテーションで大学が変わる—アクティブ・ラーニングにいのちを吹き込むには、ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
 ・各授業回におけるリアクションペーパー 40%
 ・最終プレゼンテーション（法政大学へのカーボンニュートラルに関する取り組みの提案） 30%
 ・最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】
 今年度から開講のため、該当なし。

【その他の重要事項】
 ・本科目は、9月28日、10月5日、10月12日、10月26日、11月16日の計5日間で実施する。
 ・授業の時間帯（時限）は、2限～4限を基本とする。ただし、フィールドワーク実施日（10月5日、10月12日）においては、時間が変更になる場合がある。そのため、本科目を履修する場合は、秋学期土曜日に他の科目を履修することはできない。
 ・定員（25名程度）を超過した場合は、抽選を行う。
 ・初回授業までに、オンデマンドシステム（<https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/>）から『なぜカーボンニュートラルの実現を目指す必要があるのか』を必ず視聴し、学習支援システムからミニレポートを提出すること（視聴履歴及び提出状況を確認します。提出方法等の詳細については、学習支援システムで周知します）。
 ・授業に関する質問については、授業の前後、学習支援システムで受け付ける。
 ・フィールドワーク先への交通費、昼食代等は、自己負担となる。

【Outline (in English)】
【Course Description】
 This course offers students an opportunity to understand environmental and social issues globally in order to achieve carbon neutrality. Students will participate in several field works, including commercial companies, local governments, and universities that have promoted carbon neutrality. At the end of the course, students are expected to present proposals to Hosei University as a team to enhance their carbon-neutral environment. Students will learn facilitation techniques throughout the course in order to promote group projects.

【Course Objectives】
 The course will provide students with the opportunity to learn:
Content (Learning Material) Goals:
 ・To understand the structure of global environmental and social issues to achieve carbon neutrality.
 ・To take action in daily situations.
Process (Learning Process) Goals:
 ・How to facilitate group discussions to solve environmental and social problems.
 ・To apply facilitation skills to other problem-solving situations.
Final Assignment:
 As a team, student must present concrete proposals for carbon-neutral initiatives to Hosei University
【Learning Activities Outside of Classroom】
 Preparation for the final presentation will occur outside of class hours. The standard time allocated for preview and review for this course is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policies】

Reaction papers in each class session: 40%
Final presentation (proposal for carbon-neutral initiatives at
Hosei University): 30%
Final report: 30%

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携フィールドワーク (ベーシック)

コーディネータ：山本兼由、講師 (ゲストスピーカー) :
イオンフィナンシャルサービス株式会社

開講時期：オースタムセッション/Autumn Session | 単位数：2
単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷

備考 (履修条件等) :

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イオングループが事業展開する小売をはじめ、金融、サービス事業等について理解し、職場体験等を通じてグループ各社の仕事について理解を深めると共に、地域文化・風土の理解、グローバル思考の醸成、企業としての社会的役割などを学んでいただくことが本授業の目的です。

本科目の履修に際しては、「社会連携講座 (ベーシック)」を履修済みであることが望ましいですが、本科目を履修するうえでの必須条件ではありません。

尚、当実習は複数大学合同で実施します。協力体制の下で、グループワークに取り組んでいただき、相互理解・視野の拡大を図ります。

【到達目標】

・学生は、グローバル社会における国際的な倫理観に関する情報、課題テーマに関する知識を自ら収集し、分析するスキルを身につけ、活動するための実践的なコミュニケーション能力や他者を巻き込みながらプロジェクトを遂行するために必要な指導力の重要性を理解することができるようになります。

・学生は、この授業を通じて、自らの体験をそれぞれが専攻する学問の体系と関係づけ、将来社会人として活動するために必要な知識や能力について考察を深め、自らのキャリアの展望について考察を深めることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

国内編5日間・海外編5日間ともに集合 (対面) 形式で実施します。合計10日間、他大学の学生と合同です。

前半はイオンフィナンシャルサービスおよびグループの国内拠点企業、後半は同グループの海外拠点企業が担当します。業務内容の説明や就業体験、社員とのセッションを通じ、業務内容への理解を深めます。

また、実習前に事前学習を実施します。金融基礎や業界分析方法をレクチャーし、実習での理解度を高めます。事後学習では、自らの学びやグループワークでの貢献度を振り返りと共に、今後の目標を考えます。

<授業スケジュール (予定) >

8月初旬 (予定) 10:00~12:00 事前学習 (他学合同)

8月26日 (月)~8月30日 (金) : インターンシップ (国内編) (各日 9:30~17:30)

9月1日 (月)~9月5日 (金) : インターンシップ (海外編) (現地時間 9:30~17:30)

10月初旬 : 10:00~12:00 事後学習 (他学合同)

※9月1日 (日) はタイへの移動日。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事前学習①	金融基礎を学び、イオンの金融事業を理解する。企業分析。
2	事前学習②	ビジネスフレームワーク、海外調査 (マレーシア)

3	グローバルインターンシップ (国内編) ①	オリエンテーション、目標設定、イオン金融事業について、国内金融事業会社の業務紹介
4	グローバルインターンシップ (国内編) ②	金融事業会社の拠点 (店舗) 見学、フィールドワーク
5	グローバルインターンシップ (国内編) ③	職場体験、グループワークにてプレゼンテーションテーマ討議
6	グローバルインターンシップ (国内編) ④	グループワーク、プレゼンテーション資料作成、概要発表
7	グローバルインターンシップ (国内編) ⑤	プレゼンテーション、社員との交流会、国内編まとめ。イオン金融事業の海外展開について
8	グローバルインターンシップ (海外編) ①	海外編オリエンテーション、現地のビジネス展開、現地視察
9	グローバルインターンシップ (海外編) ②	海外の金融事業紹介 (タイ、アジア等)
10	グローバルインターンシップ (海外編) ③	部署紹介、現地社員とのワークショップ (英語)
11	グローバルインターンシップ (海外編) ④	プレゼンテーション資料作成 (英語)、発表リハーサル
12	グローバルインターンシップ (海外編) ⑤	プレゼンテーション (英語)、社員との交流会、研修まとめ
13	事後学習①	業界・企業研究 (自身が興味をもつ業界や企業について3C調査など)
14	事後学習②	体験発表 (学びと気づき、自己分析)、課題発表

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

業界分析、企業分析、自己分析、振り返り、成果報告会プレゼンテーション準備などを授業外学習として課します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。

【参考書】

資料については開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期間中に目指す「個人目標」を設定。毎日の取り組みや学びについて「振り返り」を提出し、実習後に自身の学びや気づきについて「参加報告書」(600字以上1,000字以内)を提出 (30%)。積極的な参加姿勢やグループワークでの貢献度 (70%) を主たる評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは一人一人の役割の大切さを実感した、プレゼンテーションテーマである新規サービスの提案では「ビジネス視点の考え方」を学ぶことができた、多くの声をいただきました。各自で実習期間中の目標設定をしますが、多くの学生が達成し更に新しい目標を持つことができています。今回は国内編・海外編ともに集合 (対面) で実施とじていますので、活発なグループワークディスカッションやプレゼン準備となるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションに向け、パワーポイント資料の作成を行ってもらいます。資料作成や情報収集のためパソコンを準備してください。実習会場ではwi-fiを整備しますが、会場外やフィールドワーク時にパソコンを使用する場合はWi-Fi等通信機器を準備してください。Word、Excel、PowerPointは使用可能な状態にしておいてください。

【その他の重要事項】

・国内編は、イオンフィナンシャルサービス株式会社 (神保町、本郷、一部募張を予定) での集合形式 (対面) です。会場までの交通費は自己負担となります。

・海外編インターンシップは、AEON Thana Sinsap (Thailand) Public Company limited. (タイ、バンコク) での集合形式 (対面) です。航空券・宿泊ホテルはイオンフィナンシャルサービスグループにて手配しますが、渡航・宿泊費用 (概算20~30万円) は自己負担となります。

・参加者は海外旅行損害保険及びインターンシップ損害賠償保険に加入が必要です。

・国内/海外ともに、状況によりスケジュールや内容が変更となる場合があります。

- ・本授業は定員制（3～5名）です。受講希望者が定員を超えた場合は選抜を実施します。
- ・履修申請については、申請フォーム（<https://forms.gle/R7eVW2wWEwepXqRn9>）を確認してください。

[Outline (in English)]

[Outline]

The purpose of this course is to learn about the work of each Group company in the retail, financial, and service businesses in which the AEON Group operates, as well as its understanding of local culture and climates, fostering a global orientation, and its social role as a global company.

[Goal]

Students will be able to acquire the skills to collect and analyze information on international ethics and knowledge on issue themes in a global society, and understand the importance of practical communication skills for activities and the leadership skills needed to carry out projects while involving others.

Students will be able to relate their own experiences to the academic system of their major, deepen their reflection on the knowledge and abilities necessary to work as a member of society in the future, and deepen their consideration of their own career prospects.

[Work to be done outside of class]

Industry analysis, company analysis, self-analysis, reflection, and preparation for the results presentation will be assigned as out-of-class study.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

[Grading Criteria]

Set a "personal goal" to aim for during the period. Submit a "reflection" on your daily efforts and learning, and after the training, submit a "participation report" (600 to 1,000 characters) about your own learning and realizations (30%). The main evaluation will be based on active participation and contribution to group work (70%).

CMF200LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200)

社会連携フィールドワーク (アドバンス)

水野 雅男、伊藤 マモル

開講時期：スプリングセッション/Spring Session | 単位数：2
単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：多摩

備考 (履修条件等)：

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

我が国における被災地での避難所生活は、小中学校の体育館に雑魚寝というもので、人道支援活動のスイファ基準に照らし合わせて、難民キャンプよりも劣るとも言われている。その改善案 (代替案) として、大学キャンパスでの避難生活拠点の設営の必要性とその運営体制の重要性を学ぶとともに、心身両面の健康を維持するための留意点についても学ぶ。

【到達目標】

人間の尊厳を守る「豊かな生活」、多様性を尊重した「社会的包摂」という2つの観点から避難生活の改善策を検討し導き出す。さらに、避難生活の安全性、快適性の向上を目指して、大学キャンパスや周辺地域の資源を活用した設営のあり方を検討するとともに、その運営に欠かせない様々な技術を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

多摩キャンパスにおいて、4日間 (2025年3月15日 (土) ~ 18日 (火)) の集中講義形式で実施する。教室でのレクチャーのみならず、学内でのフィールドワークと宿泊体験、ディスカッションなど多様な形態を取り、グループワークを中心に据えている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の目的とスケジュールの確認、履修生の自己紹介等
第2回	国内外の避難生活の実態	我が国とイタリア等の避難所設営と避難生活基盤や運営体制の比較、様々な課題の提示
第3回	避難所の設営と運営の要点	避難所を設営、運営する際に留意すべき要点の紹介
第4回	避難生活での健康維持の要点とその計測	エコノミークラス症候群や感染症を防ぐための留意点とバイタルチェック手法の紹介
第5回	グループ編成	チームビルディングの要点の提示、グループ結成
第6回	キャンパス内の滞在資源実態調査①	屋外・屋内の避難スペースの確認
第7回	キャンパス内の滞在資源実態調査②	生活インフラ設備や備蓄品等の確認
第8回	滞在資源実態調査結果とりまとめ	上記調査結果をマップ等にとりまとめ、発表する
第9回	キャンパス内での避難生活空間の設営プラン検討	季節や気候条件、収容する避難者の属性を想定して、キャンパス内での避難生活空間の設営イメージを検討し、発表する
第10回	キャンパス内での避難生活空間の設営	多様な属性の避難者を想定した上で、屋外空間で野営滞在する空間 (テント等) を設営する
第11回	キャンパス内での宿泊体験	設営したテント内で宿泊する

第12回	避難所の設営・運営上の課題の検討	宿泊体験を通じて感じた避難所設営・運営上の課題について、快適性、安全性、包摂性の各視点からとりまとめ、発表する
第13回	実現化に向けた行動計画の検討	キャンパス内に避難生活拠点を設営・運営するために必要な行動計画を検討し、発表する
第14回	ふりかえり	すべてのプログラムを通じて得られた知見と今後の取り組みについて、全員が発表して共有する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

災害時の避難所の実態について、新聞、雑誌、書籍等を事前に調べて関心を持つ。講義で示した事例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】

授業やフィールドワークへの積極的参加、グループワークでの発表や質疑応答、課題に対する取組み姿勢を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初年度なので、学生の意見を取り入れながら柔軟に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】

この授業の履修登録は、大学側で行います。

学生自身では、履修登録はできませんのでご注意ください。受講希望者は、以下の Google フォームより申請してください。

<https://forms.gle/pXD4TbQRchKMDyga7>

※申請期間：2025年1月13日 (月) ~ 1月24日 (金)

【Outline (in English)】

[Class outline and purpose]

Life in evacuation centers in disaster-stricken areas in Japan is akin to sleeping in the gymnasiums of elementary and junior high schools, and is said to be inferior to refugee camps according to Sphere standards for humanitarian aid activities. As an improvement plan (alternative plan), students will learn about the necessity of setting up an evacuation center on a university campus and the importance of its management system, as well as the points to keep in mind to maintain both physical and mental health.

[Attainment target]

We will consider and derive measures to improve evacuation life from two perspectives: "enriching lives" that protect human dignity, and "social inclusion" that respects diversity. Furthermore, with the aim of improving the safety and comfort of evacuation life, students will study how to set up evacuation sites using resources from the university campus and surrounding areas, and acquire various skills essential to their operation.

[Class progress and methods]

The course will be held as a 4-day intensive lecture format at the Tama Campus. In addition to classroom lectures, the program takes a variety of forms, including on-campus fieldwork, overnight stays, and discussions, with a focus on group work.

[Learning outside of class hours]

Research newspapers, magazines, books, etc. in advance to become interested in the actual situation at evacuation centers during disasters. Students will deepen their own interest by investigating in more detail the examples shown in the lectures. The standard preparation and review time for this class is approximately 2 hours each.

[Methods and standards of performance evaluation]

Active participation in classes and fieldwork, presentations and Q&A during group work, and attitude toward tackling assignments will be evaluated.

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携フィールドワーク

高見 京太

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 単位数：1単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：多摩

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、動物福祉への関心が高まる中、世界中で引退競走馬のアフターケアが注目されています。本授業では、馬の生態、馬産業、競走馬の競馬における活躍、そして引退後のセカンドキャリア構築に至るまでの基本知識から実践的な取り組みまでをフィールドワークを通して学びます。また、「人馬のウェルビーイング」の理念を理解し、引退競走馬のセカンドキャリア構築方法を深く掘り下げ、人と馬の双方に健康と幸福をもたらす方法について議論します。

【到達目標】

- ・競馬の背後にある文化や学び、そして人々の交流を知る。
- ・引退競走馬のセカンドキャリア構築の手法を理解する。
- ・人馬のウェルビーイングを前進させるためのアプローチを見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・1日目 8月5日（月）

[法政大学川崎校地 集合／川崎競馬場 解散]

*ガイダンス

*競馬、競走馬、人馬のウェルビーイングに関する講義を受ける。

*川崎競馬場において、競走馬が躍動する姿を直に見学する。

・2日目 8月6日（火）

[法政大学多摩キャンパス城山校地馬場に集合／那須塩原へ向けてバスで移動]

*引退競走馬のリトレーニング・グラウンドワークを見学する。

*馬房作業、農園作業、馬との触れ合い活動を体験する。

*地方競馬および騎手育成の仕組みについて講義を受ける。

・3日目 8月7日（水）

[地方競馬教養センター]

*地方競馬教養センターにて、騎手候補生の訓練馬として活躍する引退競走馬を観察する。

*引退競走馬に支えられて研鑽を積む騎手候補生達の訓練現場を見学する。

*教養センター生徒との意見交換をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1(8月5日)	ガイダンス	本授業の概要と目的、到達目標を確認し、フィールドワークを実施する際の受講ポイントを理解する
2(8月5日)	「人馬のウェルビーイング」の基礎知識	人馬のウェルビーイングについての基礎的な事項を理解する
3(8月5日)	競馬の概要	競馬とは何か、地方競馬の業務とは何か、といった、競馬とそれを運営する地方競馬全国協会(NRA)について理解する。
4(8月5日)	競馬場でのレース前日の競走馬観察	レース前の馬の様子を観察し、馬の挙動や馬を引率する人の役割を理解する

5(8月6日)	競馬場でのレース中の競走馬観察	馬が見せるレース中の全力疾走とその直後の様子を観察し、馬の能力を理解する
6(8月6日)	引退競走馬のリトレーニングの基礎	リトレーニング手法の一つである「グラウンドワーク」のデモンストレーションを見学し、実務現場を理解する
7(8月6日)	人馬のウェルビーイングの実践（馬房作業）	馬の繋養について理解するため馬房作業を体験する
8(8月6日)	人馬のウェルビーイングの実践（馬糞堆肥の活用）	馬糞堆肥を利用した農園での作業を実践する
9(8月6日)	人馬のウェルビーイングの実践（触合い活動）	馬の性質を理解するために、人馬のウェルビーイングによる引退競走馬との触合いを体験する
10(8月6日)	地方競馬教養センターの基礎知識	地方競馬教養センターの仕組みと役割を理解する
11(8月7日)	騎手候補生の訓練馬として活躍する引退競走馬の観察	騎手候補生の訓練馬として活躍する引退競走馬のセカンドキャリア構築現場を観察する
12(8月7日)	地方競馬教養センターの施設見学	騎手候補生が日々訓練を積み夢に向かって研鑽を積む教養センター施設を見学する（トレーニングルーム見学、馬場整備体験など）
13(8月7日)	地方競馬教養センター生徒と受講生の懇談	教養センター生徒と受講生が交流の場を持ち、共通の話題として引退競走馬の役割について議論しつつ、多岐に渡る懇談を楽しむ
14(8月7日)	まとめ	本授業の振り返り、受講者相互のディスカッションを通じて、引退競走馬のセカンドキャリアについて議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する

【参考書】

必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

講義におけるショートレポート：30%

フィールドワークの取り組み：60%

最終レポート：10%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

【2日目、3日目の細部】

① 8/6(火)は、午前中に多摩キャンパス馬術部馬場にてフィールドワークを実施し、講義終了後にキャンパスにて昼食を済ませて、教員と受講学生はバスで那須塩原市の地方競馬教養センターへ向けて出発。

(13:00多摩キャンパス出発、15:30教養センター到着を想定)

② 地方競馬教養センターに到着後、講義およびグループワークを実施し、併設の那須寮に宿泊。

③ 8/7(水)は、早朝からフィールドワークを実施後、昼食を挟んで教養センター生徒との交流会を実施。

④ すべてのプログラム終了後、14:30帰路に就き、JR久喜駅(15:30頃)、JR京王高尾駅(16:45頃)、多摩キャンパス(17:00頃)、以上の3か所のいずれかでバス下車を選択する。

⑤ 受講者が支払う参加費(宿泊及び食費(夕、朝、昼))は、一人当たり合計5,960円。

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, Based on the philosophy of "Horses and Humans Well-being", the aims of this lecture are to understand the method of building a second career for retired racehorses promoted and learn the original philosophy of welfare and new prospects for diversity.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the ecology and evolution of horses and experience the dynamism of racehorses.
- B. Understand the method of building a second career for retired racehorses.
- C. Understand Horses and Humans Well-being.
- D. Discuss ways to link horses' and horses' health and welfare, bring about synergistic effects, and find a specific direction.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short report in a lecture: 30%

Fieldwork efforts: 60%

Final report: 10%

CMF200LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200)

社会連携PBL (アドバンス)

高田 朝子

開講時期：オースタムセッション/Autumn Session | 単位数：2
単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷

備考 (履修条件等)：

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一つの地域に焦点をあて、地域が抱える課題に対して学生の視点から何らかのソリューションをつくりあげる講義と演習のハイブリッド型授業である。

6月1日の市ヶ谷キャンパスでのキックオフからはじまり、9月2日から5日までのフィールドワークを経て、10月 (日程は調整中) の市役所への発表を経て授業は終了する。変則的な日程である事に注意すること。

受講生は以下の4つのプロセス全てに参加することが求められる。

- ①事前講義に参加すること
- ②夏休みに行われる現地での演習授業に臨むこと、そのためのグループワークを行うこと
- ③演習授業後のまとめの講義に参加すること、プレゼンテーションのためのグループワークに参加すること
- ④自治体の首長もしくは相当の人びとの前で自分達のソリューションやアイデアに関するプレゼンテーションを行うこと

本授業の目標は、二つある。第一に、日本の地方都市の持つ課題を理解すること。第二に与えられた課題に対して自分達なりのアプローチをおこない、課題のソリューションもしくはそれに相当するアイデアを考え、それらを言語化、可視化することである。与えられた課題に対して、手をつくして資料を調べ、チームでアイデアを練り上げるためのディスカッションをし、その後現地に出向き実際がどうなっているのかを体験することで、現実の世界と頭の中で考えることの違いを実体験する。その上で、どのように課題解決の道筋をつくりあげるかを実践的に学ぶ。

【到達目標】

日本という国が直面している現状を理解する。特に地方都市において人口減少がどのように進み、それがどのように人びとの生活に影響をおよぼしているのかを理解する。その上で、与えられた課題に対して、自分達で考え、調べ、ディスカッションをし、そして現地で現実を体験し、試行錯誤を繰り返す中で自分達なりのソリューションやアプローチを確立する。

加えて、学外の人と関わるためのビジネスマナーを身につけること、プレゼンテーションのやり方を身につけることも副次的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本講は夏休みに大分県杵築市にてフィールドワークを行う。大分県杵築市は法政大学設立者3名の内、2名の出身地である。

本講は4つの部分からなる。

- 1) 市ヶ谷キャンパスで6月からはじまる事前講義 ならびに各グループで行う事前ワーク
- 2) 杵築で9月2日から5日で実施されるフィールドワーク
- 3) 市ヶ谷キャンパスで行う事後講義ならびに各グループワーク
- 4) 市ヶ谷キャンパスで行う発表会

具体的な日程としては

- 1) 事前座学は6月1日土曜日、6月15日土曜日、7月13日土曜日の3、4限で実施する
- 2) 現地フィールドワークは9月2日から5日の4日間実施する
- 3) 事後座学の日程については後日示す。
- 4) この他に各グループでのグループワークの時間が発生する

【履修について】 (4月15日追記)

本授業の履修を希望する者は4月19日 (金) 17時までに学習支援システムで仮登録すること。

人数等を踏まえ、選抜を行う可能性がある。

選抜については、4月22日 (月) ~23日 (火) 頃を目安に学習支援システムを通じて連絡する。

【費用について】 (4月15日追記)

本授業の受講者には、フィールドワークにおける宿泊料として15,000円を負担していただきます。

(これを超える分の宿泊料や航空券代は大学が補助を行います。)

その他、事前・事後学習のために市ヶ谷キャンパスに通う交通費や、フィールドワークに係る

現地交通費、食費等は学生の自己負担となります。

最初に座学を行う。座学において課題に対して、解決のための周辺情報をまず自分で調べる。そして、グループで調べディスカッションをし、課題解決のために活動し素案を作る。その間に杵築市役所とのウェブでの打合せも行う。

多くのグループ単位の課外行動が必要とされる。

夏休みに現地実習を経て、自分達のアプローチの妥当性を検討する。その後、事後座学として、発表前のリハーサルならびにプレゼンテーションのブラッシュアップを行う。日程については後日示す。

希望するグループについてはプレゼンテーションのワークショップを実施する。

最後に本学にて、自治体関係者に対して、課題に対する自分達のソリューションについての発表を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	6 対象地域の紹介と授業のやり方	必ず出席のこと。対象地域の紹介と課題について説明を行う。
キックオフ		その後グループ編成を行う。
第2回	6 地域の実際、私達のおかれている状態、どのように調べるか	地域を取り巻く環境を知る。課題解決のアプローチ方法について学習する。
第3回	6 課題解決のアプローチと作法①	どのように課題を解決するか。ビジネスマナーについて学ぶ①
第4回	6 課題解決のアプローチと作法②	どのように課題を解決するか。ビジネスマナーについて学ぶ②
第5回	7 事前調査	現地調査に必要な講義ならびにグループワーク
第6回	7 事前調査	進捗報告
第7回	9月2日 現地演習①	現地調査に必要な講義ならびにグループワーク
第8回	9月3日 現地演習②	進捗報告
第9回	9月3日 現地演習③	現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う
第10回	9月4日 現地演習④	現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う
第11回	9月4日 現地演習⑤	現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う
第12回	9月5日 現地演習⑥	現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う
第13回	リハーサルとプレゼンテーションブラッシュアップ (日程は後日示す)	最終報告に向けてプレゼンテーションのブラッシュアップ
第14回	発表 (日程は後日示す)	市役所に対してソリューションの発表を行う各自の報告レポートならびに、グループ発表の際のパワーポイントの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多くのグループワークが発生する。授業外で課題へのソリューションについてのディスカッション、リサーチをする必要がある。グループワークのやり方については、参加者に任せるが、ウェブを有効活用してほしい。

最低でも、大体演習前10時間程度、演習後10時間程度のグループワークが必要となると考えられる。各自時間を確保してほしい。

この他に、希望者にはプレゼンテーションの資料作成などのワークショップの機会も作る。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜示す

【参考書】

適宜示す

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%

座学でのレポート 20%

課題へのソリューション並びにプレゼンテーション（S&P） 40%

注意

座学でのレポートは個人で提出する。

課題へのソリューションとプレゼンテーションは、グループで提出する。ただし、フリーライダーを防ぐために、プレゼンテーション後にグループメンバーでお互いの貢献度の評価を行う。この評価表は教員に直接提出される。

その結果は平常点ならびに、S&Pの素点に加味されるので注意されたい。

【学生の意見等からの気づき】

今年度初めてのため適用外

【Outline (in English)】

Hybrid lecture/exercise class that focuses on one region and creates a solution from the student's perspective to a problem that the region is facing.

Students are required to participate in all of the following three processes.

(1) Participate in preliminary lectures, (2) Attend on-site training classes during the summer vacation, and (3) Participate in the training classes at the end of the summer vacation,

(3) Present their solutions and ideas in front of the head of the local government or equivalent.

The primary goal of this class is to understand the issues facing Japan's regional cities. The second goal is to establish their own approach to the given issues and to verbalize and visualize their solutions or equivalent ideas.

By studying materials, learning, class discussions, and then going out to the field to experience it firsthand, the students will experience the difference between thinking in their minds and thinking in the real world. Then, students will learn practically how to create a path for solving problems.

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携講座 (ベーシック)

佐野 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金5/Fri.5 | キャンパス：市ヶ谷

備考 (履修条件等)：

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法政大学校友会 (本学を卒業したOBOGを中心に構成される組織) 及び法政財界人倶楽部 (本学卒業の上場企業取締役経験者を中心に構成される組織) との連携のもと開講される、オムニバス形式の講義です。豊かなビジネス経験を持って高い地位を築き、仕事と母校への情熱を有する校友会・倶楽部メンバー (卒業生) が集まって講師陣となり、そのキャリアの中で体得した「実践知」の内容やノウハウについて、様々な事例や出来事を示しながら自らの言葉で解りやすく解説します。これは卒業生が現役学生にエールを送る場であり、履修者が卒業生の経験を共有、理解することを通して、自らの今後のキャリア形成について独自かつ具体的に考える機会となります。

【到達目標】

就職活動や卒業を控えた学生は、自分が卒業後のビジネス社会で「どう働き、どう成長していくのか」具体的なイメージが掴みきれず、漠然とした不安を感じているのではないか。また、学生らが現在思いを巡らす将来像、将来計画そしてそのための取り組みや努力の正しさについて、日々悩んでいるのではないか。この社会連携講座は、そうした在学生の不安感に、それを乗り越え実績を積み重ねた卒業生らが自らの言葉で応えようとするものです。その意味で、この講義の目標は「学生と卒業生の対話」であり、履修者の到達目標としては「ビジネス界の先輩 (講師となる卒業生) が有する企業での経験を共有し、自らの意見を述べ、コミュニケーションを深めていく能力 (コミュニケーション能力) の向上」となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

複数 (4名) の卒業生講師によるオムニバス形式のリレー講義です。それぞれの講師が3週分の授業を受け持ち、①自分自身のキャリアの振り返り (第1週)、②自らが勤務した企業の紹介及び業界研究 (第2週)、③講師と履修学生との対話・質疑応答 (第3週) の三つのセッションを進めていきます。なお、全体を通して、本学校友会に関わる経営学部の教員がMCを務めます。以下、授業計画にある「ビジネス」(業界) は、担当予定者の事業スケジュールの都合により変更になる場合があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
オリエンテーション	セッションの概要と担当講師 (卒業生) の紹介、それぞれの業界に関する解説	MCを務める教員 (経営学部教授) が、リレー講義全体の流れ及び、講義理解を深める上で必要な基礎的知識について解説します。
講義①その1	コンビニエンスストア・流通ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の元社長 (卒業生) による講義です。
講義①その2	コンビニエンスストア・流通ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。

講義①その3	コンビニエンスストア・流通ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	上記、大手企業の元社長との対話を中心とした講義です。
講義②その1	住宅メーカー・不動産ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の元社長 (卒業生) による講義です。
講義②その2	住宅メーカー・不動産ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義②その3	住宅メーカー・不動産ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	上記、大手企業の元社長との対話を中心とした講義です。
講義③その1	政策金融機関と独立行政法人での仕事とキャリア	政府機関の元副理事長 (卒業生) による講義です。
講義③その2	政策金融の制度と市場構造、機関研究	上記機関の関係者をお招きして行う講義です。
講義③その3	政策金融機関で働くこと、その中にある「実践知」	上記、政府機関の元副理事長との対話を中心とした講義です。
講義④その1	総合事務用品メーカー・通販ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の副社長 (卒業生) による講義です。
講義④その2	総合事務用品メーカー・通販ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義④その3	総合事務用品メーカー・通販ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	上記、大手企業の副社長との対話を中心とした講義です。
授業内試験	論述試験の実施	期末試験の実施に合わせて、講義内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各講師の企業について、ホームページや有価証券報告書等を読み込んでおくことを求めます。授業の準備・復習時間は各2時間を基本とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。

【参考書】

参考書は使用しません。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験 (70%)、各講義①～④の「その3」への貢献度 (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規設置講義のため、特にありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This Alumni Speaker Series brings alumni back to campus to share their “practical wisdom” on a variety of topics, such as business literacy, prioritizing multiple passions and finding unique ways to develop career. The series aims to encourage students to envisage their own career as they listen to career talks by the lecturers.

【Learning Objectives】

By the end of the series, students can develop the career image and evaluate what they understand the direction of their self-study. Through this series, students expand their scope of career target.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the series content.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination (70%) and in-class contribution(30%)

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携講座 (ベーシック)

コーディネータ：山本兼由、講師 (ゲストスピーカー) :
イオンフィナンシャルサービス株式会社

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時間：土2/Sat.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考 (履修条件等)：

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力 (お金に関する知識と判断力)」を身につけることは重要です。金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講義の目標です。本講義はイオンフィナンシャルサービス株式会社の寄付講義です。

【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計 (ライフプラン) が作成できるようになる。

The goals of this course are as follows:

- ・ To understand the financial services related to your own life for making proper decisions.

- ・ To gain the knowledge for making your own life planning including monetary planning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講師が交代する場合があります。毎回、学習支援システム Hoppii より受講後アンケートを提出していただきます。講義はオンライン (ZOOM) で実施します。

- Lecturers may change depending on their schedule.
- After each class, you need to submit a questionnaire through the learning support system Hoppii.
- This course will be held through ZOOM online.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性・人生とお金	①金融教育の重要性②人生とお金③大学生活とお金
2	お金を稼ぐ	①お金を稼ぐ②職業選択③額面収入と手取り収入④海外で働く
3	生活に関わる税金	①税金の種類②収入に関する税金③日々の生活に関する税金④その他の税金
4	ライフプランを描く①	①ライフプランの重要性②所得と収入③人生の3大費用④ライフイベントを描く
5	ライフプランを描く②	①PL、BS、CF②キャッシュフロー表の作り方③キャッシュフロー表の分析
6	お金を借りる①(クレジットカード)	①お金を借りる方法②多様化する決済③外カの仕組み④外カの上手な使い方
7	お金を借りる②(ローン、リース)	①ローン②分割払い③リース④多重債務の予防
8	お金と経済	①お金と経済の関係②景気・物価・金利の関係 ③金利と外国為替

9	お金をふやす①(投資)	①お金を増やす方法②貯蓄について③投資について④投資のリスクコントロール
10	お金をふやす② (NISAとiDeCo)	①NISA ②iDeCo
11	リスクに備える①(生保、年金)	①生活におけるリスク ②私的保険の基礎知識 ③身体・健康のリスクに備える
12	リスクに備える② (損害保険)	①身の回りのリスク②損害保険について
13	トラブルに強くなる	①消費者トラブルの現状 ②消費者を守る制度③トラブルに遭わないために
14	ライフプランを描く ③ 総括	①ライフプランを作る②ライフプランの見直し方法、総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各授業の準備学習及び復習は、それぞれ2時間程度を必要とする内容を設定しています。配布資料およびweb上の参考資料を必要に応じて読んでください。

a) The preparation and review of each class are expected to spend 2 hour each.

b) Text and handouts will be available on Hoppii.

【テキスト (教科書)】

なし

Nil

【参考書】

各回の講義資料については学習支援システム Hoppii に事前に掲載予定です。

Presentations for each class will be posted in advance on the learning support system Hoppii.

【成績評価の方法と基準】

受講後アンケートの提出 (30%)、中間テスト1回 (30%) および最終テスト (40%) の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定します。なお、受講後アンケートの提出回数が全14回の講義中7回以下の場合は単位を付与しないものとします。

・ Examination 70%

2 examinations will be conducted online on the learning support system Hoppii.

a) Midterm exam 30%

b) Final exam 40%

・ Subbit a post-course questionnaire 30%

Please note that if you fail to submit the post-course questionnaire equal or more than 7 times out of 14 lectures, no credits will be given.

【学生の意見等からの気づき】

将来だけでなく現時点での生活にも役立つことが学べたといった意見を多くいただきました。2024年度も皆さんの生活に密着した事例等を取り入れ、人生におけるリスクに対する心構え等も含め役立つ情報をお伝えします。

We received many comments that they were able to learn things that would be useful not only in the future, but also in their current lives.

In 2024, we will continue to incorporate case studies that are closely related to your daily lives and provide useful information, including how to prepare for risks in life.

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、PCを用意してください。

Please prepare a PC for online classes.

【その他の重要事項】

毎回、学習支援システム Hoppii より受講後アンケートの提出を求めます。アンケートを集計し、講義内容の理解度、定着度の確認を行います。講義内容に関する質問があれば、次回講義時にまとめて回答を実施します。

After each class, you will be asked to submit a questionnaire through the learning support system Hoppii. We will compile the questionnaires and check the level of understanding and retention of the lecture content. If you have any questions regarding the lecture content, we will answer them all at the next lecture.

【Outline (in English)】

In present-day, having “Financial Literacy”, the knowledge and skills needed to make important financial decisions, is important.

This course provides necessary knowledge and information to have Financial Literacy.

This course is provided by AEON Financial Service Co., Ltd. For free.

CMF200LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200)

社会連携講座 (アドバンス)

高見 京太、佐野 竜平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水4/Wed.4 | キャンパス：多摩
備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

我が国における競馬は、1861年に最初のレースが行われてから160年の歴史を持ち、現在では10万人もの観客を集めるレースも行われ、その人気は新聞やテレビなどのメディアによる報道からも読み取れる。競馬で主に注目を集めるのは競走馬であるが、その背後には幅広い領域において多くの専門家が支えることで成り立っている。また、競馬は、我が国における大きな産業の一つでもあり、馬のレースというだけでなく、人々の暮らしに様々な影響を与えている。本講義では競馬をテーマとして、スポーツビジネス、サステナブルな社会、そして人馬のウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）のあり方について学ぶ。

【到達目標】

- ・競馬の歴史、国内外の競馬界、競走馬、競馬場について知り、スポーツとしての競馬を説明することができる。
- ・競馬ビジネスの戦略を理解し、ビジネスとして成立させている要因とその運営を支えるメカニズムについて関係づけることができる。
- ・競走馬のセカンドキャリアについて学び、人馬のウェルビーイングにつながる引退競走馬の利活用について述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・競馬に関わる専門的な事項についてはJRAの各領域の専門家が講義をする。
- ・復習テストまたはショートレポートにより各回の学びを整理し、最後に、総まとめのレポート課題を提出する。
- ・開講時限は、水曜日4時限目の3キャンパスの授業時間が重なる15:30から16:40の70分間である。
- したがって、市ヶ谷キャンパスの4時限目開始時刻の30分後から始まり、多摩キャンパスの4時限目終了時刻の30分前に終わる。
- ・講師が教室で講義をするのは、原則として市ヶ谷が7回、多摩が7回（合計14回）であるが、受講する学生は、14回の全てをそれぞれのキャンパスで受講する。
- したがって、7回は対面で、7回は教室のスクリーンに映し出されるもう一方のキャンパスの授業を受講することになる。
- ・フィールドワークは、法政大学馬場（多摩キャンパス）とJRA東京競馬場（府中市）において2回実施され、に現地集合・現地解散で参加する。

→フィールドワークⅠ

実施日：10月19日（土）9:30-13:00 予定

場所：法政大学多摩キャンパス城山校地

テーマ：人馬のウェルビーイング実践(馬の性質をより深く理解するために、馬とのふれあい、厩務作業、馬糞堆肥によるサステナブルな農園での取組みを体験し、人馬のウェルビーイング活動の可能性や課題を探る。

→フィールドワークⅡ

実施日：11月9日（土）10:00-15:00 予定

場所：東京競馬場

テーマ：競馬関連施設および観客の前で行われる競馬のレースを見学することにより、それまでの学びを確認し、その後の学習内容をより深く理解するための知識を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	学習内容の理解	本授業の概要を知り、学びの目的を明確化して、到達目標を確認する。そして、課題解決型フィールドワークとしての学習の計画を定める。 高見京太(スポーツ健康学部)：多摩から発信
2	競馬の概要	競馬とは何か、日本中央競馬会の業務とは何か、といった、競馬とそれを運営する日本中央競馬会(JRA)について理解する。 JRA経営企画室：多摩から発信
3	競走馬の生産	競走馬を生産するうえで重要な馬の種付け、妊娠、出産、産後等の母馬と仔馬の疾病や注意点などについて理解し、馬の繁殖について学ぶ。 JRA生産育成対策室：多摩から発信
4	競馬番組・競走体系	優秀な繁殖血統の選抜のためにJRAがG1を頂点としたレース体系を構築していることが重要であることを理解する。 JRA番組企画室：市ヶ谷から発信
5	競馬法とその改正の歴史	競馬の実施において最も重要な法律となる「競馬法」の歴史を知り、競馬法に定められている内容、競馬法と今の競馬体系がどのように関連しているのかについて理解する。また、勝馬投票券の仕組みを学び、払い戻し率や投票券について理解する。 JRA経営企画室：市ヶ谷から発信
6	ギャンブル等依存症対策	競馬がギャンブルであることは事実であり、競馬によるギャンブル等依存症が存在することを理解するとともに、JRAが取り組む依存症対策について学ぶ。 JRA経営企画室：多摩から発信
7	競馬の舞台装置	競馬場のメインである馬場（芝コース・ダートコース）について学ぶとともに、職員が執務するエリアや観客エリアについても学び、競馬場という施設全体を知り、週末のフィールドワークに備える。 JRA施設部：市ヶ谷から発信
8	競馬のプロモーション戦略	JRAの実施している各種プロモーションの目的や狙いを知り、そのために実施しているメディア戦略やイベント戦略について理解する。 JRAイベントプロモーション課：市ヶ谷から発信
9	映像コンテンツとしての競馬	JRAの歩みと競馬映像の歴史を知るとともに、映像コンテンツの役割や課題・今後の展望について学ぶ。 JRA映像企画課：市ヶ谷から発信
10	インターネットを活用した販売戦略	JRAがこれまで取り組んできた勝馬投票券の発売の歴史を知るとともに、現在取り組んでいるインターネットを活用した販売戦略について理解する。 JRAお客様部ネット販売室ネット販売課：市ヶ谷から発信

- 11 馬事振興への取組み JRAが馬事振興に取組む意義や目的、実際にどのような馬事振興を行っているかについて理解する。
- 12 引退競走馬を軸にした循環型社会と農福連携 JRA馬事振興課：多摩から発信
人馬のウェルビーイングに関連した実践を学習し、その応用の手段を考察する。
佐野竜平(現代福祉学部)：多摩から発信
- 13 世界の競馬 競馬は世界中で行われているが、その競馬の歴史や競馬の種類、日本の競馬の世界的な立ち位置や諸外国の競馬について学ぶ。
JRA国際企画室：市ヶ谷から発信
- 14 引退競走馬のセカンドキャリア(リトレーニング) 競馬を引退した馬のセカンドキャリアにおける「リトレーニング」という手法を学び、それを大学で人馬のウェルビーイングに繋げる取組みを理解する。
柏村晋史(体育会馬術部監督)：多摩から発信

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の復習テスト：84%（6点×14回）

フィールドワークのショートレポート：8%（4点×2回）

最終レポート：8%

【学生の意見等からの気づき】

配信を受ける側の教室の受講者より、講師の声が聞き取りにくいことがあった、との指摘を受けたので、講師にマイクの使用方法について注意を促す。

【その他の重要事項】

本授業の講義は、市ヶ谷キャンパスと多摩キャンパスの教室で実施します。

受講するキャンパスにより授業コードが異なるため、履修登録時に注意してください。

・市ヶ谷キャンパス授業コード：A9861

・多摩キャンパス授業コード：A9862

※選択したキャンパスで全ての回を受講していただくことになります。

※市ヶ谷を選択した場合、水曜3・5限に多摩または小金井の授業を履修登録できず、多摩を選択した場合、水曜3・5限に市ヶ谷または小金井の授業を履修登録することができませんので、注意してください。

当科目は、フィールドワークへの参加が必須であり、これらは土曜日に計画されていますので、スケジュール管理は確実にしてください。

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, you will learn that horse racing is involved in the sports business, sustainable society, and Horses and Humans Well-being.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Learn about the history of horse racing, the domestic and international horse racing world, racehorses, and racecourses, and understand horse racing as a sport.

-B. Understand the strategy of the horse racing business and gain systematic knowledge about the factors that establish the business and the mechanisms that support its operation.

-C. Learn about the second career of retired racehorses and understand the efforts of Horses and Humans Well-being.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Review test: 84% (6 points x 14 times)

Fieldwork report: 8% (4 points x 2 times)

Final report: 8% (8 points x 1 time)

